



市立太田高校
(商業科)



高校生と一緒に自社の課題に新しい視点を 企業連携プロジェクト 参加企業募集

CCPとは？

地元高校生が、企業や地域の課題解決に挑戦します。

若い世代ならではの視点やアイデアを取り入れられる、企業連携型の探究学習プロジェクトです。



企業連携プロジェクト
Corporate Collaboration Project

こんな企業様に

実施期間

令和8年4月1日～令和9年3月31日

毎週火曜日：15:30～16:20

対象企業

事業規模を問わず学生の社会教育にご興味のある事業者様

01

若年層の感覚・価値観に興味があり、取り入れたい

02

企業として社会貢献や地域連携に取り組みたい

03

将来を見据えた
人材育成・教育支援を考えている

CCP詳細



募集要項



申込締め切り
令和8年1月14日(水)

申込みフォームはコチラ



お問い合わせ

太田市立太田高校

担当教諭：倉林 正・小菅 優

TEL: 0276-31-3321

FAX: 0276-32-3004

E: t-00036@giga.otacity-hs.ed.jp (倉林宛)

創造未来探究（総合的な探究の時間）

企業連携プロジェクト

Corporate Collaboration Project

企業連携プロジェクト（CCP）

教科・科目

「創造未来探究（総合的な探究の時間）」の授業で実施される教育活動

授業日

火曜日7時間目（15:30～16:20）

対象生徒

商業科2年生（太田市立太田高等学校）

活動場所

教室での活動が主であるが、企業見学等も実施したい

なぜ、学校と地域のつながり？

社会に開かれた教育課程

なぜ、今「社会に開かれた教育課程」の実現が求められるのか？



社会のつながりの中で学ぶことで、
子供たちは、自分の力で人生や社会を
よりよくできるという実感を持つことができます。

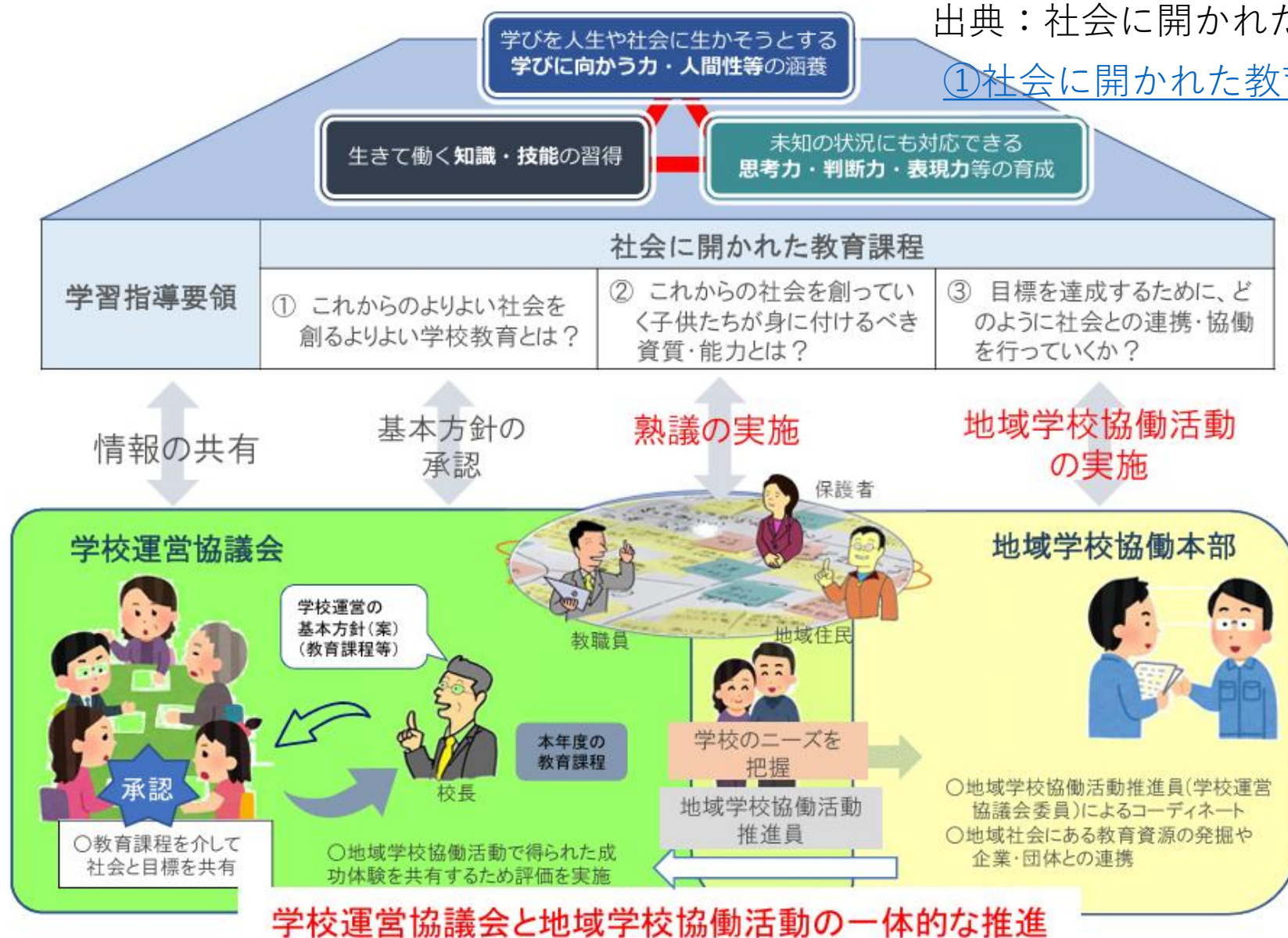
このことは、変化の激しい社会において、
子供たちが困難を乗り越え、
未来に向けて進む希望や力になります。

そのため、これからの学校には、
社会と連携・協働した教育活動を
充実させることがますます求められます。

「社会に開かれた教育課程」の実現と「地域と学校の連携・協働」

出典：社会に開かれた教育課程（文部科学省）

①社会に開かれた教育課程の実現について



社会に開かれた教育課程が必要な理由

(1)社会が急速に変化しているから

AIの進化、グローバル化、少子高齢化など、社会はかつてないスピードで変化している。
このような時代では、「知識を覚えるだけ」では不十分。
子どもたちには、自ら考え、学び、社会と関わりながら課題を解決する力が必要。そのため、学校と社会をつなげて、リアルな課題に触れる学びを進めることが求められている。

社会に開かれた教育課程が必要な理由

(2)学校だけでは育てきれない力があるから

今の教育では、コミュニケーション力・協働力・創造力など、実社会で必要な「生きる力」を育てることが重視されている。これらの力は、教室内だけでは十分に育成することが難しい。

地域の人や企業、自治体と協働して、実際の社会の中で学ぶ機会をつくる必要がある。

社会に開かれた教育課程が必要な理由

(3)学校と社会がともに成長する関係をつくるため

「社会に開かれた教育課程」は、これまでのように社会から一方的に支えられる存在ではなく、学校と社会が互いに支え合い、学び合う関係を目指している。

地域の課題を学校が学びの題材とし、子どもたちの発想や行動が地域をより良い方向へ進めていく。

創造未来探究とは

※「企業連携プロジェクト」は、創造未来探究（総合的な探究の時間）の授業の中で、取り組む教育活動

市立太田高校 教育目標

【教育目標】

確かな知性・豊かな人間性・たくましい心身を培い、高い志をもち、**自ら未来を拓く生徒**を育成する

◎自ら未来を拓く生徒

- ・より良い社会とより良い人生を築いていくために、広い視野を持って、自ら学び、考え、判断して行動できる生徒

[確かな知性]

自立して学び続けることができる力

学んだことを自身や周囲の成長のために活用できる力

[豊かな人間性]

多様な価値観を尊重することができる力

礼節を持って周囲と協働できる力

[たくましい心身]

粘り強い行動や挑戦するための体力と精神力

心身の健康を自ら管理できる力

「創造未来探究」で育成したい生徒像

主体的社会形成者

- ・ 自分から積極的に行動して、周りと協力しながら社会をより良くしていこうとする人。
- ・ 自分の意見やアイデアをしっかりと持ちつつ、周りの意見も取り入れながら、より良い方向に導いていくような人。

自分の周りで起きている問題や課題に対して「どうしたら解決できるかな？」と考えて、自らアイデアを出したり、実際に行動に移したりする。また、周りの人たちと積極的にコミュニケーションを取りながら、共通の目標に向かって協力し合える人。さらに、失敗を恐れずにチャレンジしたり、柔軟に考え方を変えたりできる、そんな人を「主体的社会形成者」と考えている。

創造未来探究の「テーマ」

地域を元気に！！

社会や地域が抱えている課題を
見つけて、高校生の力で解決する。
～より良い社会づくりに貢献～

創造未来探究 全体概要

最終目的

地域を元気に！！（より良い社会づくりに貢献）

6年目

普3

創造未来探究

将来へ繋ぐ

課研

- ・将来へ繋ぐ
- ・地域を動かす

商3

3年目

5年目

普2

地域を動かす

地域と協働する

商2

2年目

4年目

普1

地域と関わる

地域と関わる

商1

1年目

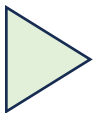
広い視野の獲得・探究サイクルの定着

3年目

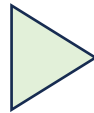
中3

創造未来学習

MISSION VII
地元企業



MISSION VIII
百貨市

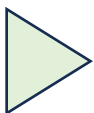


MISSION IX
古都京都

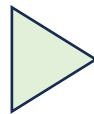
2年目

中2

MISSION IV
太田中の魅力



MISSION V
首都東京

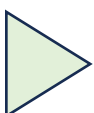


MISSION VI
進路

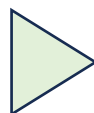
1年目

中1

MISSION I
地元の魅力



MISSION II
職場



MISSION III
県都前橋

CPP
実施

「創造未来探究」で育成する資質能力

重点資質能力

PASSION

- ◎社会課題の自分事化
- ◎自分で社会を変える

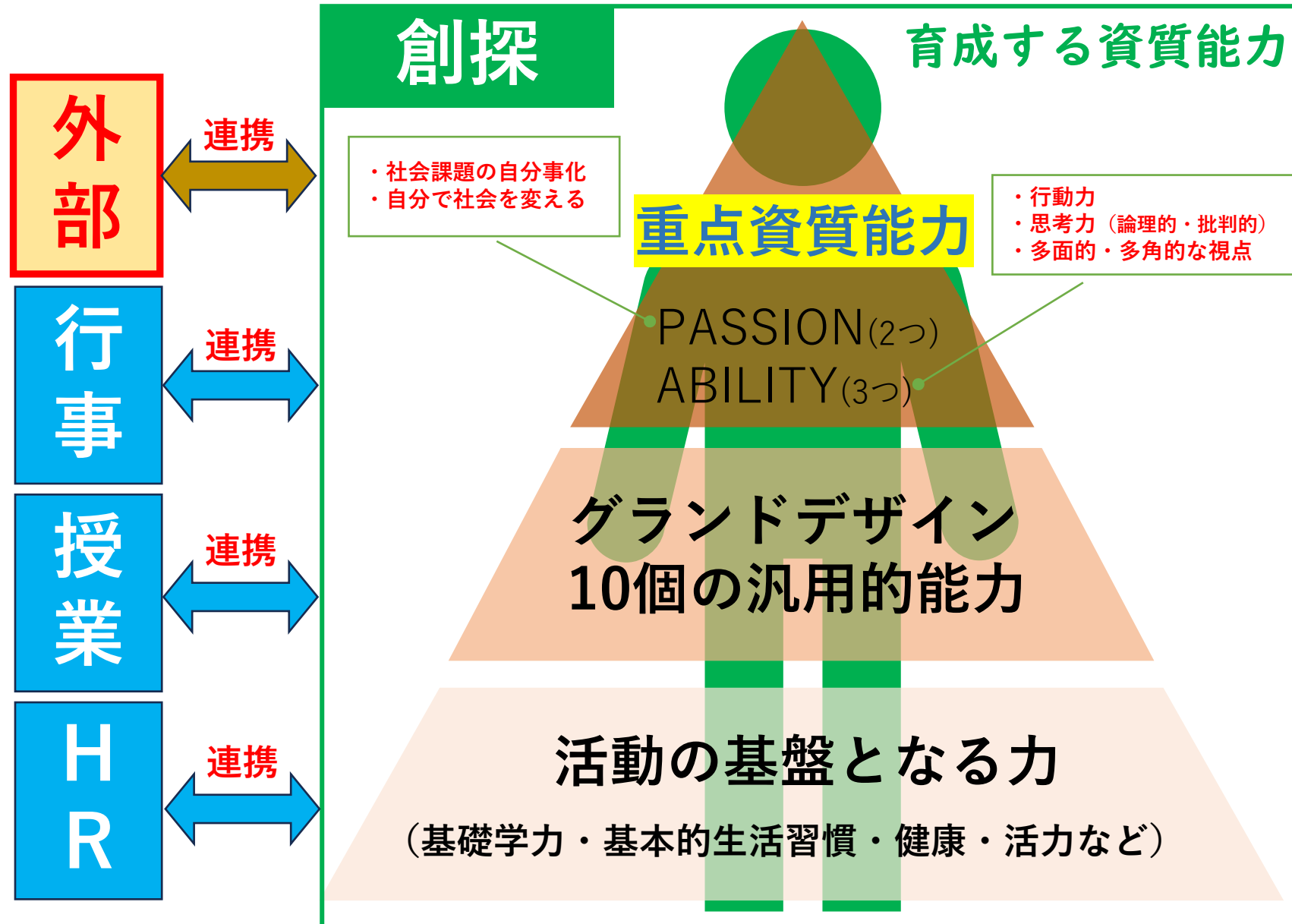
ABILITY

- ◎行動力
- ◎思考力（論理的・批判的）
- ◎多面的、多角的な視点

汎用的能力（グランドデザインより）

- | | |
|-----------------|----------------|
| ①計画力・立案力・実行力 | ⑥マナー・倫理観 |
| ②プレゼン力・情報処理能力 | ⑦自己理解 |
| ③チームワーク・リーダーシップ | ⑧忍耐力 |
| ④コミュニケーション力 | ⑨職業観・勤労観・将来設計力 |
| ⑤主体性・チャレンジ精神 | ⑩多文化理解・地域理解 |

「創造未来探究」のイメージ



より良い社会を築く (Building a better society)



企業連携プロジェクト (CCP)

概要

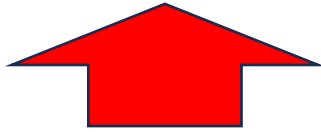
高校生と一緒に企業・地域を元気に！！

企業や地域が抱える課題を高校生と企業と一緒に
試行錯誤しながら、解決に向けて行動する



CCPの想い

**将来の地元地域を支える人材を
地域と共に育てていく**



経験させたいこと

- ・地元企業について理解を深めること
- ・地元企業の魅力や価値を知ること
- ・現実の社会課題と対峙すること
- ・社会人と一緒に地域（社会）へ貢献すること
- ・仕事をすることの意義や楽しさを実感すること



生徒に身に付けさせたい力

ゴール 地域を支える「主体的社会形成者」の育成

①社会課題の自分事化

企業（地域）が抱えてる課題を自分事化しようとする姿勢

②自分で社会を変える

主体的に企業（地域）をより良い方向へ変えていこうとする姿勢

③行動力

課題解決に向けた提案を出し、実行することができる

④思考力

目的（解決課題）を常に意識し、目的に添った解決案を提案できる

⑤多面的、多角的な視点

地域、顧客、企業、社員など多様な立場の視点で考えることができる

期待できる企業側への効果（一例）

①若い世代の斬新なアイデア獲得

- ・高校生ならではの自由な発想を事業や課題解決等に活かすことができる。
- ・生徒の提案を新たな商品・サービス開発、プロモーション戦略などのヒントに活用できる。

②次世代人材との接点と育成

- ・生徒との交流を通じて、若い世代に貴社の事業や魅力を直接アピールすることができる。
- ・アウトリーチ活動の一環として、社員研修や人材育成の機会としても活用できる。

③地域・社会への貢献と広報

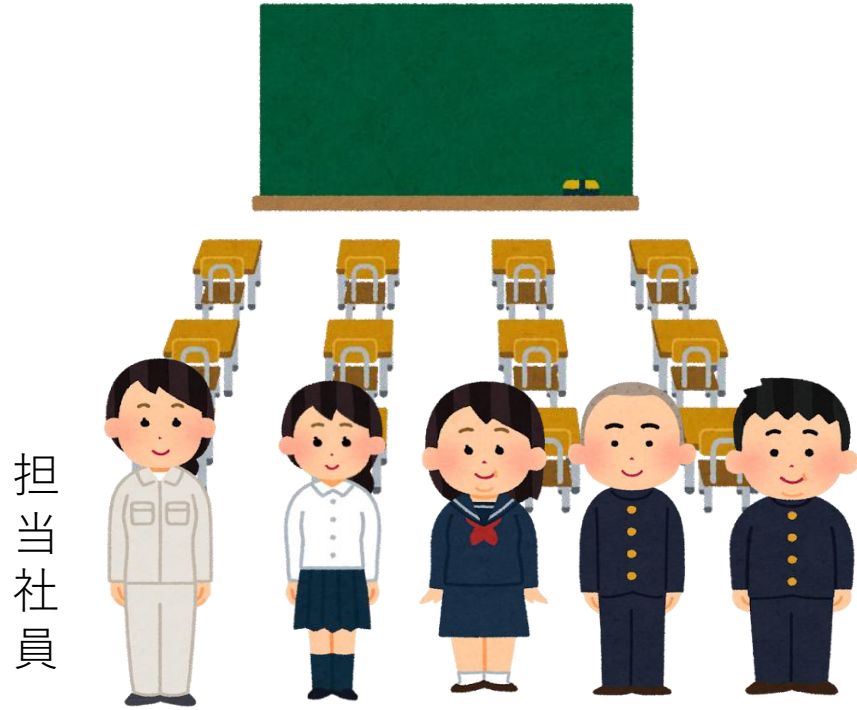
- ・学校と連携した教育活動となるため、地域貢献事業として扱うことができる。
- ・貴社の事業内容や社会的な役割を広く伝えることができる。

計画・予定

月	活動内容	備考
R8 1 月	オリエンテーション	
R8 2 月	チーム編成、企業調べ	<div>・チーム編成と ・企業決定</div>
R8 3 月	企業調べ、連携先の決定	
R8 4 月	キックオフ会、連携先企業を学ぶ	
R8 5 月	連携先企業を学ぶ、企業訪問（1学期中間考査後）	<div>・企業理解 ・課題解決に向けた提案 ・行動計画の作製</div>
R8 6 月	打合せ	
R8 7 月	打合せ、夏休みミッションに向けた準備	
R8 8 月	夏休みミッション	
R8 9 月	中間報告会	<div>百貨市準備期間</div>
R8 10 月	活動なし（百貨市準備のため）	
R8 11 月	行動計画の作製or実行	<div>・行動計画の作製 ・課題解決に向けた行動</div>
R8 12 月	行動計画の実行	
R9 1 月	行動計画の実行	
R9 2 月	発表準備、最終発表会	<div>・振り返り・まとめ</div>
R9 3 月	活動内容を報告書（レポート）にまとめる	

生徒との活動が開始

授業中の基本活動



社員の方が、来校して対応

※来校できない場合の対応

- ・オンラインでの対応
- ・担当職員やチームリーダーに取り組んで欲しいことを予め伝えておく

活動日時

- ・毎週火曜日 7 時間目（15:30～16:20）

活動場所

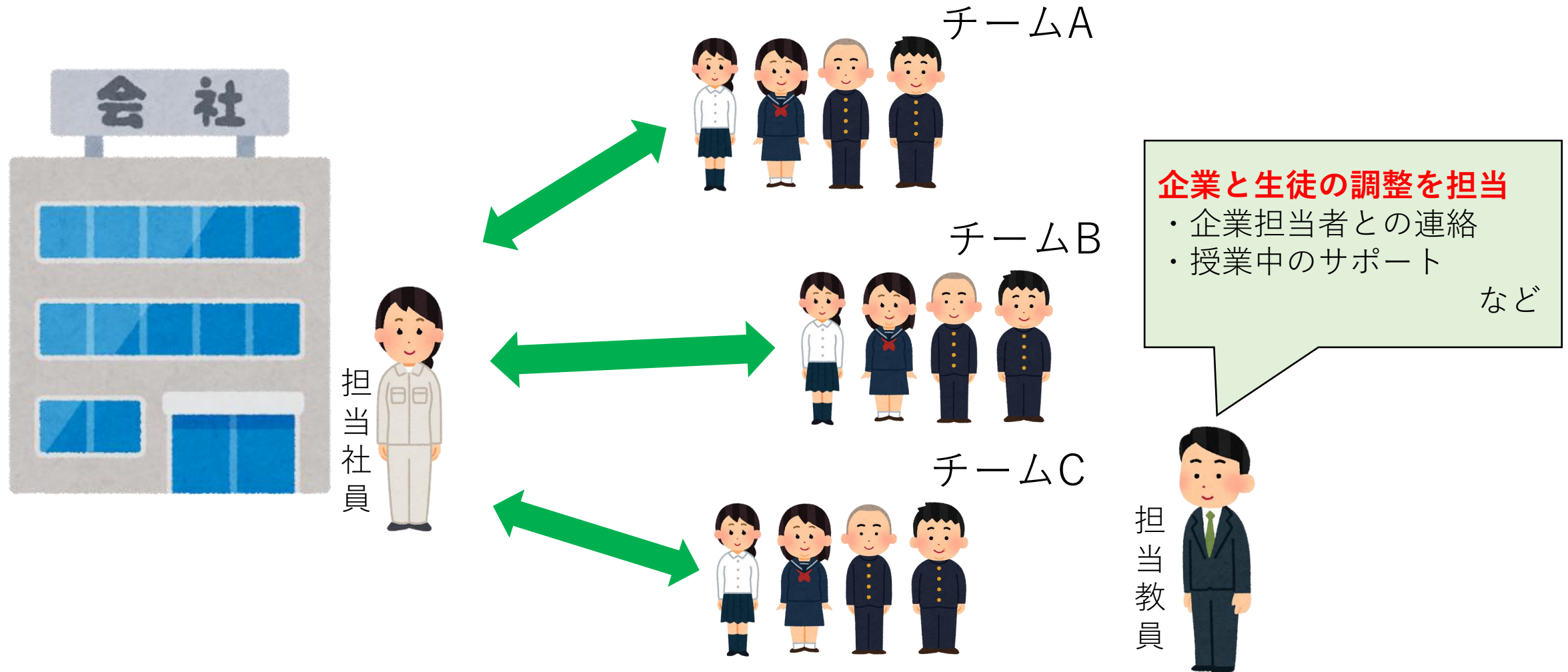
- ・各教室

活動内容（想定される活動内容の一例）

- ・生徒との打ち合わせ、意見交換
- ・企業理解を高めるための講義
- ・進捗状況の確認
- ・取組みに対する助言
- ・生徒と一緒に課題の解決案を考える
など

授業中の基本活動

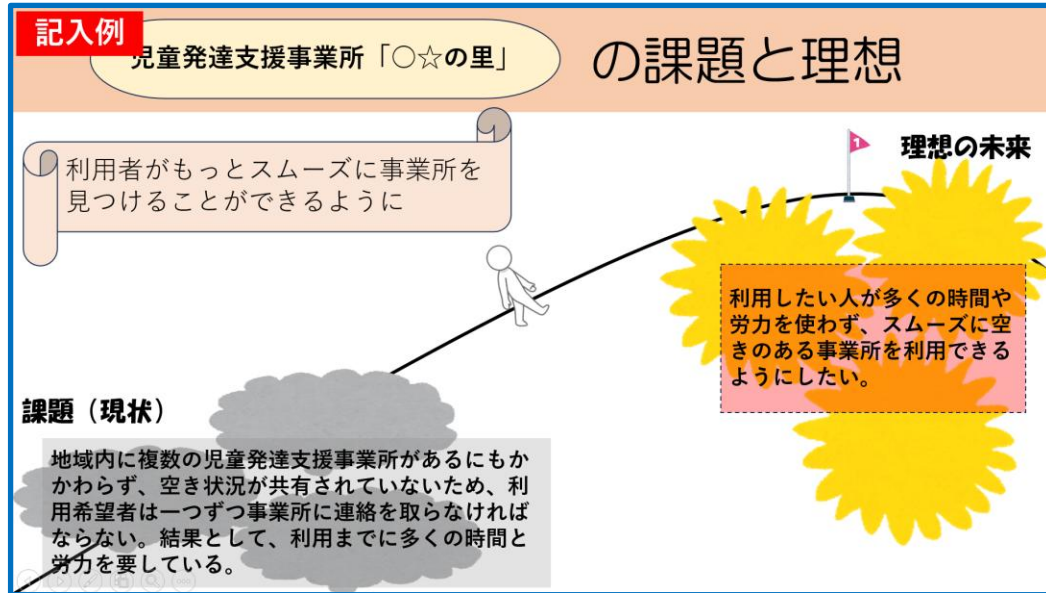
1社あたり2～4チームを担当 ※1チーム:生徒4名程度



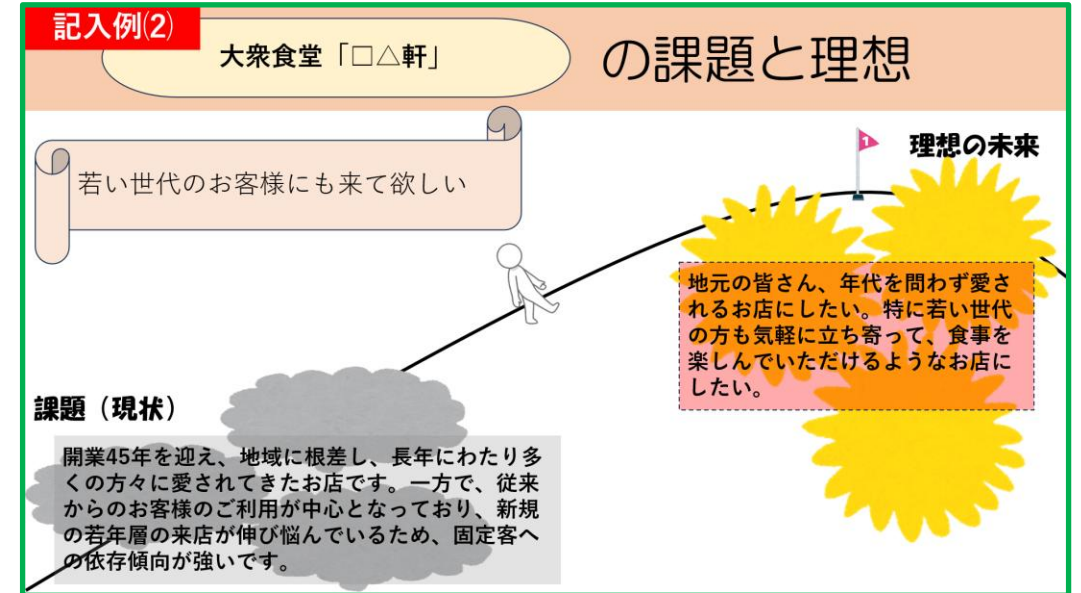
連携先企業の選択

ミッションシートの内容を見て、班ごとに連携したい企業を選択する。

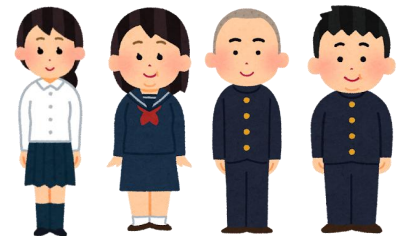
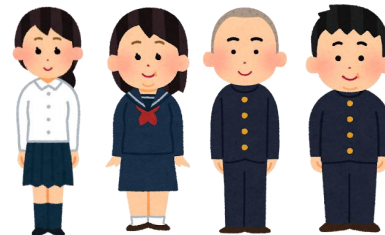
※ミッションシートの詳細は最後のスライドにあります。



ミッションシート



ミッションシート



企業訪問【5月末】

現場のリアルを体験する

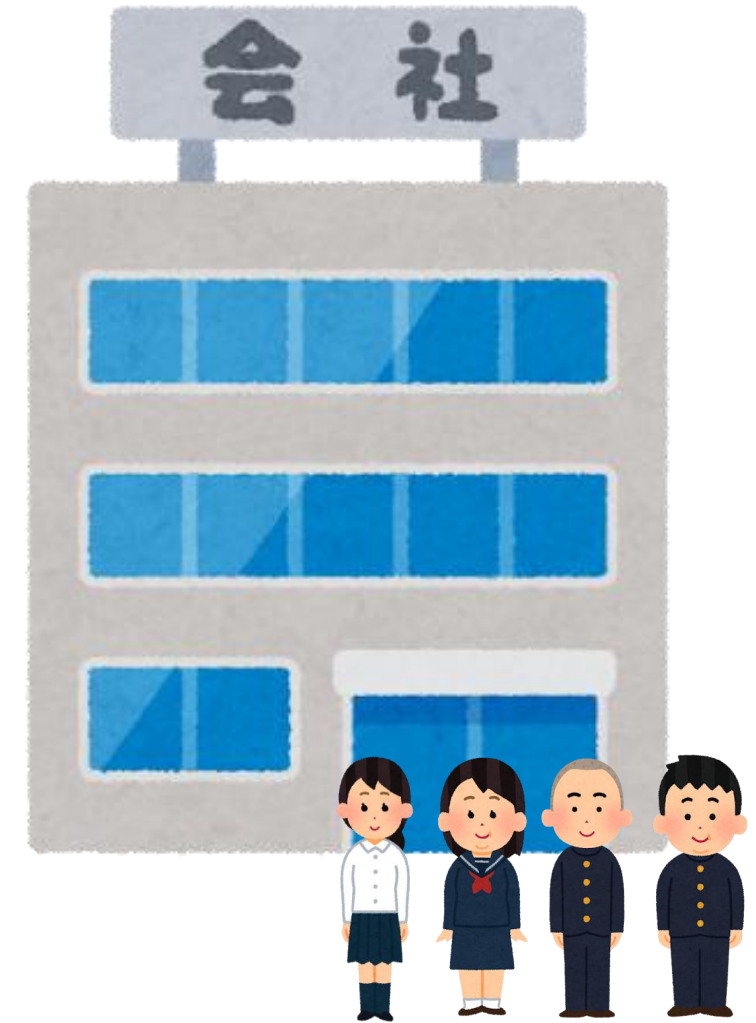
実際の職場の雰囲気や仕事の進め方、社員の方々の働く姿勢などを直接見ることで、企業の課題を具体的・実感的に理解する。

課題の本質をつかむ

現場を見学し、担当者等から直接話を聞くことで、背景や要因、影響範囲などを多角的に把握する。

課題の自分事化

企業の雰囲気を感じたり、社員の方々と交流することで、企業課題を「自分ごと」に感じさせる。



発表

中間発表会【9月】

取り組む課題やその背景、計画などを発表する。また、連携企業の魅力や地域への貢献等も伝える（連携企業自慢）。



最終発表会【3月】

1年間で取り組んできた活動をまとめ、口頭で発表を行う。



レポート作成【3月】

1年間で取り組んできた内容を
レポートにまとめる

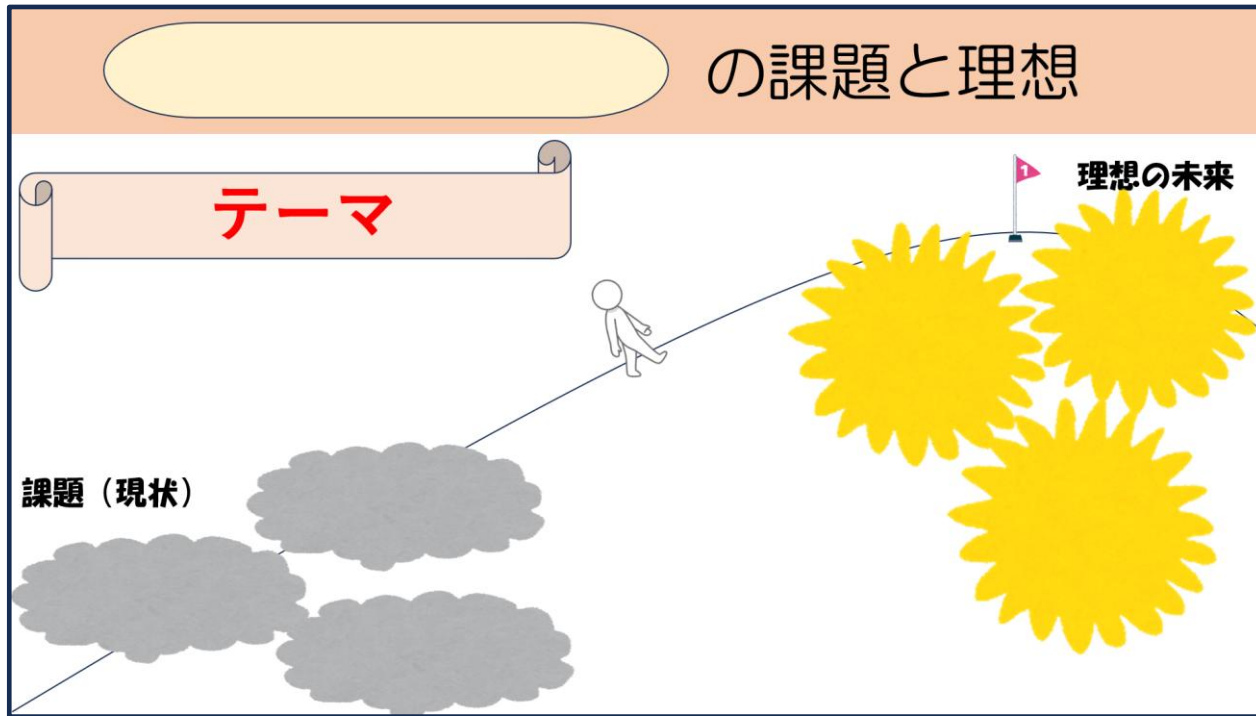
レポートに記載する内容（一例）

- (1) 企業が抱える課題の背景
- (2) 取り組んだ活動の目的
- (3) 実際に取り組んだ内容
- (4) 取組みで得られた結果
- (5) 振り返りと展望



活動開始までの準備

ミッションシートの作成と提出



ミッションシートとは

生徒と一緒に解決していきたい「現状の課題」とその課題を解決して、目指す「理想の未来」をまとめたシート。

このシートの内容を生徒が読み、実際に連携したい企業を選択するために使用します。

連携を承諾していただいた場合は、下記の期日までにミッションシートに必要事項をご記入の上、本校担当者までデータを送付してください。

提出期日：令和8年1月26日（金）

おわりに

企業連携プロジェクト（CCP）は、本校は初めて実施する授業です。学習活動中は、様々な課題や失敗等が生じることも予想されると思います。

地域や社会、教育の未来のためにチャレンジし、経験を重ねながら、良い授業を作っていきたいと考えておりますので、ご協力いただけると幸いです。

学校と地域が一体となって、将来の地域をしっかりと支えていくことができる生徒を育成していきたい。

ミッションシート

※ミッションシートは、事前にご記入とご提出をお願いすることとなります。

企業名を記入

の課題と理想

活動テーマを記入

理想の未来

ここには、課題が解決された
際の理想の状態を記載してく
ださい。

課題（現状）

ここには、現状で抱えている
課題などを記載してください。

※複数の課題や理想がある場合は、複数記載してください

記入例(1)

児童発達支援事業所「○☆の里」

の課題と理想

利用者がもっとスムーズに事業所を見つけることができるように

理想の未来

利用したい人が多くの時間や労力を使わず、スムーズに空きのある事業所を利用できるようにしたい。

課題（現状）

地域内に複数の児童発達支援事業所があるにもかかわらず、空き状況が共有されていないため、利用希望者は一つずつ事業所に連絡を取らなければならない。結果として、利用までに多くの時間と労力を要している。

の課題と理想

若い世代のお客様にも来て欲しい

理想の未来

地元の皆さん、年代を問わず愛されるお店にしたい。特に若い世代の方も気軽に立ち寄って、食事を楽しんでもらえるようなお店にしたい。

課題（現状）

開業45年を迎え、地域に根差し、長年にわたり多くの方々に愛されてきたお店です。一方で、従来からのお客様のご利用が中心となっており、新規の若年層の来店が伸び悩んでいるため、固定客への依存傾向が強いです。